自己評価報告書

平成 23 年 5 月 20 日現在

機関番号: 20102

研究種目:若手研究(B) 研究期間:2008 ~ 2011 課題番号:20730186 研究課題名(和文)

日本の公益事業の市場構造に関するパラメータの推定とその地域ごとの差異に関する分析 研究課題名(英文)

Estimate of regional market structure of Japanese public utility industry 研究代表者

秋山 修一 (AKIYAMA SHU-ICHI) 釧路公立大学・経済学部・准教授

研究者番号:60347177

研究分野:社会科学

科研費の分科・細目:経済学・経済政策

キーワード:公益事業、規制改革、実証分析、価格弾力性、ガス、電力

1. 研究計画の概要

日本における規制改革の議論は、先行する欧 米諸国における経験、あるいは理論的・実証 的な研究に依拠する場合が多く、それらが 本の経済構造や市場構造にも応用可能であ るかどうかについては検討の余地がある。と りわけ日本の公益事業については、これまで 需要は価格には反応しない、すなわち需要の 価格弾力性はゼロまたは極めて小さいとい う先験的な仮定が定着し、市場構造に関する 学術的な分析がほとんど行なわれてこなか った。

本研究課題は、日本の公益事業、とりわけこれまでほとんど分析されてこなかったガス事業について、その市場構造を表す価格弾力性や代替の弾力性について、地域ごとの差異を考慮しながら計量経済学的な回帰分析の手法を用いて推定するとともに、同じエネルギー関連の公益事業である電力事業との比較を行なうことを目的とする。

2. 研究の進捗状況

える。そこで本研究課題では、ガスと電力とのエネルギー間比較という点に着目して、ガス事業会社ごとに細分化された地域を電力市場と同じように 10 の地域に再集計することしした。これにより供給側だけでなく需要側の統計データも利用したガス需要関数の地域別推定を可能とした。現時点では、ガス需要の価格弾力性は 0.02(東京)~1.13(北陸)で、特に東京、中部、関西の都市部では 0.02~0.03 と極めて小さいとの推定結果が得られているが、あくまでも途中経過であり改善すべき課題が残っている。

一方、ガスとの比較対象としての電力事業については、これまでの先行研究(Hosoe and Akiyama[2009])に統計データの追加・更新して推定を行い、その価格弾力性は、全国平均(電力販売量による加重平均)は、短期が0.157、長期が0.264であるが、地域別には、短期が0.086(東京) ~ 0.297 (四国)、長期が0.120(関西) ~ 0.564 (北海道)であるとの結果が得られている。

3. 現在までの達成度

<区分> ③やや遅れている

統計データの収集・加工に時間を要した。とくに、推定期間の途中(平成17年度)にガス事業関連の統計が年次から年度に変更されたことなどが想定外であった。また、事業会社の統計データには誤記・誤植等も散見され、それらの点検にも時間を要した。

4. 今後の研究の推進方策

統計データの収集・加工の作業はほぼ完了しているため、あとは推定結果に結び付けるだけである。ただし、前述の年次・年次の問題から推定結果の改善の為にはさらなるデー

タの収集が必要となる可能性もある。

5. 代表的な研究成果 (研究代表者、研究分担者及び連携研究者に は下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Hosoe, N. and <u>Akiyama, S.</u> (2009) "Regional electric power demand elasticities of Japan's industrial and commercial sectors", Energy Policy, Vol. 37, pp. 4313-4319, 查読有

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号: 出願年月日: 国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称: 発明者: 権利者: 種類: 番号:

取得年月日: 国内外の別:

[その他]